

令和元年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

図1 特定健診受診率・保健指導実施率の推移

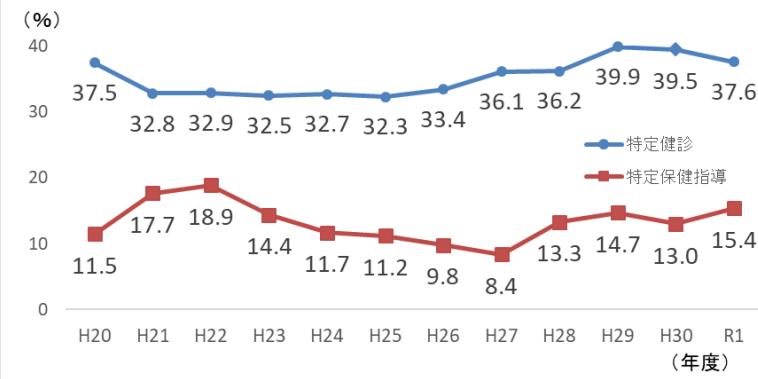


表1 H29～R元年度 目標と実績

		H29	H30	R1
特定健診受診率(%)	目標	45.0	39.5	41.0
	実績	39.9	39.5	37.6
保健指導実施率(%)	目標	35.0	16.5	18.0
	実績	14.7	13.0	15.4

表3 R元年度 実施内容と実施状況

		実施内容	R元年度の状況
健診	健診	メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)のリスクに着目した、生活習慣病を予防するための健診。40～74歳が対象。	対象者数:130,616人 受診者数:49,122人
	指導	特定健診の結果、生活習慣改善の必要があるとされた方に実施する3～6か月間の保健指導。	対象者数:5,451人 終了者数:838人
指導	動機付支援	初回面接+3～6か月後評価	対象者数:4,397人 終了者数:745人
	積極的支援	初回面接+毎月の継続支援+3～6か月後評価	対象者数:1,054人 終了者数:93人

表2 R元年度 保険者間での実施率の順位

	政令市 20		県内市町村 54	
	順位	平均	順位	平均
特定健診	4 (↓)	29.0%	39 (↓)	40.9%
保健指導	10 (↑)	15.0%	43 (↑)	24.8%

データヘルス計画 指標ごとの実績

目標	事業(対策)	R1年度事業概要	評価指標		H29	H30	R1			
			実績	実績	実績	目標値	達成状況	評価		
1	特定健康診査の受診率の向上	民間事業者に委託。7月～R2.1月 ①はがき 175,492件(1回目:83,895件 2回目:91,597件) ・健診受診歴、過去の問診結果、年代、レセプトの有無を考慮して分類し、各分類に合わせた勧奨通知を送付。 ②SMS(ショートメッセージ)2,005件 ・携帯番号の登録がある方へ勧奨メッセージを送付。	40～64歳の受診率(%)	26.2	26.4	24.7	27.3	×	・受診月の平準化を図るため勧奨時期を2か月早め、通知物に受診推奨期間を記載した。	
			65～74歳の受診率(%)	48.4	48.0	45.9	48.9	×	・新型コロナウイルス感染症の流行のため、2月の受診者数が例年より減少したため、受診率も減少した。 ⇒R2年度:継続実施。10～11月にはがき勧奨及び電話勧奨実施。若い世代の受診率向上対策として、R3.3月に39歳を対象にはがき勧奨を実施予定。	
			長期未受診者*1割合(%)	45.7	43.5	43.0	43.0	○		
1	特定健康診査の受診率の向上	民間事業者に委託。 健診結果のお知らせを通知 22,315件 平成28～30年度に受診歴がある方に経年結果及び健康アドバイスを記載した通知を送付し、継続受診の必要性を伝える。	継続受診率(%) *2	80.1	76.9	72.1	74.0	×	・全体の受診率が減少したため、継続受診率も減少した。 ⇒R2年度:継続実施。R2.11月に前年度健診受診者へ結果通知を送付した。	
			申請人数(人) (有効申請数/全申請数)	55/81 モデル実施	248/295 モデル実施	182/211 本格実施	増加	×	・市政だよりやホームページ、区役所窓口や健診センターなどでリーフレットを配布し、事業の周知をはかったが、申請数は伸びなかった。 ⇒R2年度:継続実施。受診券シールや受診勧奨のはがきに記載した。R3.3月に過去の結果提供者及び未受診者へ情報提供の案内を送付予定。	
2	特定保健指導の実施率の向上	民間事業者に委託。医療機関にて保健指導を行わない方へ専門職が利用勧奨を行う。(R2.10時点の実績) 利用勧奨数 動機付け支援 870人 積極的支援 320人 初回利用者 262人 81人	利用率(%) *3	18.8	17.7	20.7	23.1	△	・保健指導の利用率は前年より増加傾向。R1年度より動機付け支援の民間委託を拡大したため、利用率が増加した。	
			終了率(%) *4	85.3	81.9	82.1	現状維持	○	・終了率は前年より微増。 ⇒R2年度:継続実施。民間事業者で初回面接をICT利用できるよう環境を整備した。	
3	適正な医療の推奨と重症化予防	・特定健診の結果、「要医療」であるが未受療の者へ保健師・看護師が訪問・電話等により受療勧奨及び生活習慣の指導を行う。初回指導から6か月後に電話等で通院の有無及び生活習慣改善状況を確認し、再度、指導を行う。 人工透析導入防止のために、千葉市医師会と連携し、糖尿病性腎症の発症・重症化のリスクの高い方を対象に6か月間保健指導を行う。R1年度から本格実施。	指導後受療率(%)	27.8	29.7	28.1	26.3	○	指導後の受療率は約3割に留まった。 ⇒R2年度:継続実施。対象者に一律の支援であったが、よりハイリスクの方(HbA1c8.0%以上)に対し支援強化する。	
			事業参加者の新規透析患者数(人)	-	-	0	透析に至らない	○	保健指導実施者32人、人工透析には至らなかった。(参考:H29モデルのうち1人、人工透析となった。) ⇒R2年度:継続実施。新規30人。R1年度までの対象者(R1:29人、H28-30:13人予定)に継続指導実施。	

*1 5年間健診を利用していない者の割合 *2 前年度の健診を受診している者全数のうち、当該年度健診受診者の割合。H29の数値は母数に資格喪失者も含む。 *3 利用率=初回面接を受けた者/対象者

*4 終了率=終了した者/初回面接を受けた者 【達成状況】 ○:目標達成 △:目標未達だが、前年度より改善または同値 ×:目標未達だが、前年度より悪化

【総括】○達成…5項目 △目標未達だが、前年度より改善または同値…2項目

・新型コロナウイルス感染症の流行のため、2月の受診者数が例年より減少したため、受診率は微減。受診月の平準化を図るため勧奨時期を2か月早め、前年比より7.8月の受診者は増加した。

・R元年より専門職による利用勧奨から保健指導まで継続的に支援したため、特定保健指導の利用率・終了率も増加した。

・受療勧奨は目標達成したため、引き続き事業を継続する。糖尿病性腎症重症化予防は、目標達成した、今後も医療機関と連携し事業を継続していく。